

**製品名: セキュリンウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe02583**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル抗体
形態	液体
濃度	0.28mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 22 kDa; Observed MW: 25 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PTTG1
別名	PTTG1; EAP1; PTTG; TUTR1; Securin; Esp1-associated protein; Pituitary tumor-transforming gene 1 protein; Tumor-transforming protein 1; hPTTG
遺伝子 ID	9232
SwissProt ID	O95997
免疫原	ヒトセキュリンの合成ペプチド

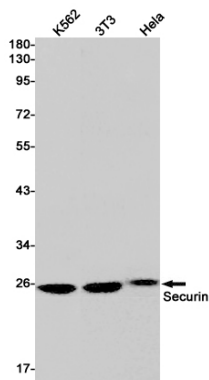
**背景**

p53/TP53 経路および DNA 修復において、染色体の安定性に中心的な役割を果たす調節タンパク質。おそらく、主要タンパク質の作用を阻害することによって作用する。有糸分裂中は、Separase/ESPL1 の機能を阻害し、コヒーシン複合体のタンパク質分解とそれに続く染色体の分離を防ぐ。有糸分裂後期の開始時にコヒキチン化され、Separase/ESPL1 の破壊と ESPL1 の遊離につながる。しかし、その機能は ESPL1 の活性化に必要であるため、阻害活性に限定されない。TP53 の転写活性および関連するアポトーシス活性を負に制御する。TP53 の負の制御は、過剰発現したタンパク質の強力な形質転換能力を説明できる可能性がある。また、Ku との相互作用を介して DNA 修復にも関与し、DNA 損傷応答経路と姉妹染色分体分離を結び付ける可能性がある。

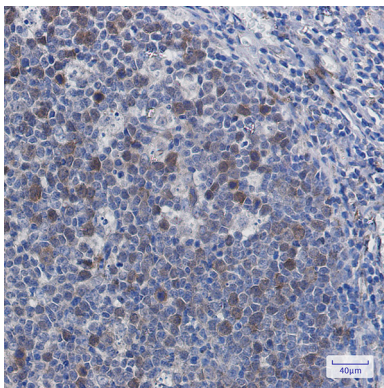
## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



Securin 抗体を使用した K562、3T3、HeLa 溶解物中の Securin のウエスタン プロット分析。



Securin 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。